

★ 以下を留意して「個別の指導計画」を作成する。なお、様式については、組織的に作成・実践・評価する中で、表記や様式を工夫してもよい。
 ★ 第三者が見ても分かるよう、具体的に書くことを心がけ、切れ目のない支援を行う。

個別の指導計画(作成上の留意点)

作成日	年 月 日 ()	記入者	評価計画	どのくらいの期間で評価し、見直していくか。		
氏名	ふりがな	生年月日	年 月 日	診断等	発達上気になること、障害の種別、健康面・手先の動き、制限や制約など。	
		クラス	歳児			
保護者の願い			担任の願い			
専門家からの助	本人の特徴的なことが分かる項目に記入する。(全項目でなくてもよい)					
	子どもの実態	考えられる背景・要因	長期・短期の目標	援助・指導方法(手立て・場)	子どもの変容	評価
生活習慣	身辺自立(排泄・食事・着脱・片付けなど)	子どもを主語にして、それぞれの場面での姿を具体的に記入する。支援方法を明確にするために、必要に応じて、1人で取組が可能なことや難しいこと、 強みとなるプラス面も 明確に記入する。				
コミュニケーション	子どもの実態に記載した姿の背景・要因として考えられることを記入する。			どのような育ちを願うのか保育者の願いを、子どもの姿で具体的に記入する。 「〇〇しない」などの否定的な目標でなく、 成功体験 や「快」感覚の言語化を意識する。		
遊び	好んで行う遊びや遊び方 こだわり場面での様子・行動 衝動的な行動や不注意	感覚機能など 初めての場面での様子や行動 表情や姿勢(体の決まり方) など		保育者の立場でねらいを達成するために、どのような援助をどのような場面で行うか、 興味・関心に基づいた援助 など具体的に記入する。 評価も生かし、次の援助や指導方法を付け加える。		
集団のかかわり	集団での活動への参加の仕方 集中できない時の行動の特徴 人とともに生活する喜びや楽しむ感覚 協力する態度や認め合う喜びの視点	集団の中での話の理解度・集中度・集中時間 模倣の様子 相手への理解や思いやり など			援助を行った結果、どのような子どもの姿が見られたか具体的に記入する。 どのような時にうまくいったかも記入する。	
その他	上記に当てはまらないこと。ケースによっては、家庭支援の内容も含めることができる。 効果的な指導にしていくには、保護者の理解と協力を得られるよう説明することなど、家庭との連携が重要となる。			具体的な状況と援助を照らし合わせ評価をする。 評価を生かして次の援助・指導を考え、該当欄にリンクして付け加えていく。		

※ 計画の修正について: 保育する中で得られた情報をもとに実態把握をさらに進め、修正していく。修正部分は取り消し線などで残し、その経緯や理由が分かることも大切。